

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900200		
法人名	日本ケアシステム 株式会社		
事業所名	グループホーム よろこび伏見		
所在地	京都市伏見区向島二ノ丸町32番地		
自己評価作成日	平成29年5月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年6月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①「笑顔が一番」の運営理念を職員間で共有し、利用者様と関わる介護を心掛けている。</p> <p>② 利用者様一人一人の人格と想いを尊重する介護を心掛けている。</p> <p>③ 地域の資源の活用という観点から、地元農家の方からの米や野菜を使い食事を提供している。</p> <p>④ 常に清掃が行き届いた清潔感のある施設の保持。</p> <p>⑤ 体操・散歩・書道・絵画・ゲームに加えガーデニングでの協働で、飽きのこないレク活動の実施。</p> <p>⑥ 運営推進会議を重要視し、地域福祉関係者のみならず他の事業所との交流も積極的にに行い、研修や講習を合同で行うなど、地域との交流を施設運営に活かしている。</p> <p>⑦ パーソン・センタード・ケアの観点に立ったケアプランの作成と、日々の介護に反映する仕組みが出来ている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自治会に加入して、地域との結びつきを大事されています。積極的に事業所内を自治会の行事や会議等に貸出すなど、よろこび運営理念「地域に開かれた事業所」を推進されています。また、地域の子供達を招待して事業所主催の「地蔵盆」を開催したり、地域の行事の際には準備を手伝うなど、交流を深めています。地域独自の地域包括協議会に加入して、近隣の事業所と情報交換や共有を行いサービス向上に努めています。「笑顔が一番」というスローガンを全職員が意識して、入居者の意見や要望を把握し、入居者中心のサービス提供を行っています。 職員会議や研修では、事前に施設長から職員一人ひとりに課題を渡し、皆で考え協力して互いに高め合うことで、業務に活かす体制が構築されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日に一度理念の共有が出来るよう「申し送りメモ」に理念を印字し、職員間で共有するように実践しています。	各ユニットの入口にその日の勤務職員の顔写真と個々の目標が掲げられて、職員が理念の「笑顔が一番」をスローガンに実績に繋がっています。職員が理念を記載された「申し送りメモ」を活用することで、更に理念が周知されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	よろこび伏見として自治会(第四元二ノ丸町)に加入し、地域の方々との関わりを持っています。地域の民生委員の方が書道の先生として毎週来られています。学区社協の方も来説されては利用者様と関わって頂いております。	自治会に加入し、地域の祭りでは、神輿が事業所に立寄ることで近隣住民と一緒に楽しんでいます。また、事業所独自で企画した地蔵盆に地域の子供を招待するなど、活発な交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種行事にボランティア参加して下さった方々と、利用者様のご家族の体験談などを話す機会を設けて、認知症について地域の方と一緒に学ぶ場を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方、民生委員や社会福祉協議会の方以外にも、同生活圏域の地域密着型サービス事業所の方も構成員として招いています。事業所間も交流を持つことで、研修や講習を合同で行うなど、サービスの向上に活かしています。	入居者、家族、民生委員、地域包括の参加と近隣グループホーム事業所が出席しています。取り組みや課題の改善を報告して、意見を伺いサービス向上に努めています。また、情報の共有を図り地域福祉づくりに向けた関係を構築しています。	自治会並びに町内会の代表者、地域の学校の先生、老人クラブなどに更なる理解と支援を得られるように積極的な参加を働きかけては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催報告書(議事録)は必ず役所に持参しています。広報誌(よろこび新聞)も添付しています。社会福祉協議会が実施する行事や教室にはボランティア参加しています。	広報誌「よろこび新聞」並びに運営推進会議録を役所に持参しています。行政主催の研修や年6回の地域の事業所連絡会には、積極的に参加して情報を得て連携を図っています。社協主催の行事には進んで協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に「身体拘束をしないケア」に取り組んでいます。また社内研修で身体拘束と見なされる行為は周知徹底しています。3原則についても社内研修で学んでいます。	マニュアルのもとに、毎月の職員会議や内部研修において、身体拘束をしない介護が共有されています。声掛けの仕方に工夫するなど、言語による身体拘束にならないように職員間でお互いに注意をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の防止について」は職員会議やユニット会議において、職員間相互チェックも含めて防止の意識を持っています。施設長・管理者は厚労省・京都市の通知通達をチェックしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について成年後見人制度は学ぶ機会を作りました。日常生活支援事業についての啓蒙は不足しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約については、重要事項説明書に基づき十分な説明を行っています。ご家族からの質問にも個別で回答し、契約の締結を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のお声に関しては、日常業務に反映するようにしています。ご家族とも個別でお声を聞くようにしています。(面会簿の意見欄)年に一度は家族会を開催し、頂戴した意見を運営に反映するようにしています。	家族が面会に来られたら、普段の状態等をお伝えして、家族からの要望を聞き取り、連絡ノートを活用して職員で情報を共有し、ケアの運営に反映しています。苦情相談書類も整備され、苦情への改善を迅速に行い、施設長が直接家族に説明して理解を得ています。	年に1・2回ご家族にアンケートを実施し、家族の思いや要望を把握して、サービスの向上に努められては如何でしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で職員の意見・提案を聞くようにしています。内容によっては施設長との個別面談で、意見を聞くようにしています。	施設長やユニットリーダーは、日常的に職員に声かけを行うことで要望や意見を聞き取り、運営に反映しています。更に会議では、職員が積極的に意見が言えるような環境作りを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の処遇改善のために、キャリアパス制度を確立し、人事考課を行っています。年に2回は個人面談も実施し待遇面だけではなく、職場環境改善に対する声も採り上げるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員や経験の浅い社員向けに「介護スキル点検表」「ジョブトレーニング日誌」を昨年から作成し、教育担当をつけてマンツーマン指導する仕組みを作りました。またスキルの幅を広げるために違うユニットでの業務を経験させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議は、向島地区にある五つの事業所すべてに参加してもらうようにしています。救急救命講習など合同で実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のケアプラン作成にあたっては、ご本人の要望を取り入れるよう、ご本人もしくは担当ケアマネジャーから詳細な情報を入手するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との関係構築と同様、ご家族の要望も取り入れるようにしています。また書面も交付し重ねて要望をいただける仕組みにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの設定を行い、短期目標と長期にわたって取り組む目標とにわけて介護計画を作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にとっての居心地の良さを常に追求するようにしています。調理や家事全般に積極的に関わっていただくことで、ご本人が持ってらっしゃる手続き記憶を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子やレク活動の参加・実施状況について、写真やお手紙を毎月ご家族に送っています。ご家族からのお返事や来設された時に頂くお言葉を、支援に役立てています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様に届く手紙やはがき、または馴染みの人からの電話から得られた情報を関係図に書き加え、その方々が気軽に来設出来るよう、こちらからコミュニケーションを取っています。	入居者や家族から聞き取りを行い相関図を作成して、馴染みの人や場所を把握しています。以前住んで居られた商店街に同行して、拘りの食品を購入するなど、入居者が喜ばれる支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置などにも常に気を使って、利用者様同士の会話やレクでの取り組みがしやすいようにしています。また2階3階合同のレクを実施し利用者様同士の関係が広がるようにもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物などが届くことがありますので、その機会にご本人もしくはご家族と面会や連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活の中で出てくるニーズ、例えばテレビを見て食べたいもの、出かけたことなどの声を、サービス提供に活かしています。食事のメニューに工夫を加えたり、レク活動のヒントにしたりしています。	「私の姿と気持ちシート」を活用することで、日々の生活で入居者の要望や思いを聞き取っています。入居者の意向を把握して、出来る限り応えるように迅速に対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様が来られた時に以前の様子や生活、馴染みの場所を聞き取りするようにし、入所後に情報入手できたこと、また日常生活の中で新たに発見したことを記録に残したり、会議の場で発表することを実践しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援経過記録という書式を作りました。ケアプラン以外に利用者様の変化の様子を時系列で見やすくし、職員間で情報共有できるようにしました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、事前にご家族にお手紙を出して、書面でご要望をいただくようにしています。ご本人の様子の変化も含めて、3か月と6か月の期間で、プランを見直しています。	見直しの際は、必ず家族から意見を聞き取り介護計画書に反映させています。事業所独自の「施設介護支援経過」書類を活用し、目標やサービス内容を職員が周知して、日々の支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	平成28年7月に「個人日課表」「業務日誌」の書式を改訂しました。介護計画で決めた支援内容と日々の様子をリンクさせることが出来る様式とし、職員が意識しながらサービス提供しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員の配置を工夫しながら外出レクの機会を増やしています。地域の方との触れ合いや、地域の方飼われてるペットと利用者様が触れあう機会も出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が主体となって実施しているイベントに参加するようにしています。伏見桃山城祭りや月に一度のふれあいマーケットへ利用者様と出かけて地域のオピニオンの方々と接しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である小川医院が全利用者の状況を把握できるよう努めてくれています。眼科や耳鼻科、皮膚科などの診療については、家族様とも相談し昔から通っていた医院で対応する場合があります。	入所の際、説明を行い事業所に隣接する医院を主治医に変更されています。また、従来のかかりつけ医への受診の際は、職員が同行し、家族と医療情報を共有し把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の病院から訪問看護師が定期的に来ますので、利用者様の健康管理について都度相談に乗ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後おおむね1週間以内に、病院の地域連携室を通じて主治医からの病状説明を受けられる機会を作っています。これにより、利用者様の状況を知ることが出来て、再入所に向けたカンファレンスにつなげています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、重度化になりそうな段階について、ご家族との面談の機会を作るようにしました。ケースによっては主治医から直接話を聞ける体制もとっています。	看取りの方針が重要事項説明書に記載されていますが、実際に経験はありません。研修は積極的に行うことで職員の意識向上に努めています。現在は事業所がどこまで支援できるかを考慮しながら、今後の方針を前向きに検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	28年11月には、京都市消防局の普通救急救命講習をよろこび伏見にて実施していただきました。また普段の全体会議では、急変時の対応や夜間の体制について確認を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	28年9月、29年3月と年に2回災害時の訓練を実施しています。9月は向島消防署に来ていただき、消防訓練を実施しました。3月は洪水等水害発生時の新しい法律に即したマニュアルを策定しそれに基づいた訓練を実施しました。	年2回の災害並びに防火訓練を実施し、夜間想定訓練も消防署立会で行われています。近くに1級河川がある為、洪水等水害に備えマニュアルを作成して、避難訓練を実施しています。災害時の備蓄品は地域にも提供出来るように対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお名前の呼び方から気をつけるようにしています。人格を尊重しつつ親しみのある接し方を心掛けています。また利用者様に関する申し送りについては、その場所についても配慮するようにしています。	職員はさりげない言葉掛けを行うことで、人格を尊重した対応をしています。日常誤った声掛けを見つけた時は、速やかに注意をして改善に努めています。居室や下駄箱の表札は京都の地名で対応しており、プライバシーを損ねないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に対してのニーズの汲み取りは、オープンクエスチョンで行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が退屈しないよう気を配っています。天気に問題なければ外出したり、違うユニットに行ったり気分転換が図れることを積極的に行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容によるヘアーカットや、服装に変化も持たせるよう、普段着や下着を買いに出かけるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関して利用者様が出来ることは、どんどんやらせてもらっています。包丁も使ってもらいます。食事の後の片づけも職員と協働しています。メニュー構成には利用者様の意見や嗜好は取り入れています。	食事のメニューは、入居者の意見を優先して提供しています。毎日の食事の準備や片付けは、入居者の協力を得ています。週に2回は、入居者と職員と一緒に下ごしらえから調理まで行うなど、共に食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取はきちんとチェックし、個人日課表で分かるようにしています。利用者様の状態の把握や量の調整も職員間で確認しあっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、その重要性や実施状況は定着してきました。それを確認するためにも京都市の口腔ケア普及啓発推進事業を受け入れ、歯科医師と京都市役所の歯科衛生士による訪問を受け学ぶ場を設けました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数や、時間を管理することで、利用者様の自らの意思に加えて、職員からの声掛けで、トイレへの誘導を心掛けています。	排泄チェック表は、職員の意見を取入れ、分かりやすく工夫されています。職員が一人ひとりの排泄状態を把握して、自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動のバランスを重視していますが、個別対応では服薬による便秘の解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、基本的な入浴時間の設定はありますが、利用者様の状態によっては臨機応変な対応もしています。	基本的に入浴時間は午前中ですが、外出や本人の希望により、時間帯を変えて入浴を楽しめるように支援しています。毎日入浴されている方も居られ、また、本人が入浴を希望されない場合は、清拭等に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースを第一に考えていますが、日中は極力活動的に過ごしていただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については施設長、管理者、ユニットリーダーで確認し、場合によっては主治医の判断を都度仰いでいます。社内研修でも薬の知識をテーマに取り上げています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同で行うレクリエーションや機能訓練以外に、個別で目標を決めて日々の過ごし方の支援をしています。「機能訓練目標カード」など作り、利用者様の達成意欲が出る仕組みを作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に関しては、外食レクだけでなく、ご本人さんの買い物、施設の買い物の同行、季節ごとのお花見や散歩、それぞれ目的をもって外出しています。	入居者と一緒に新聞広告を見て買物に出かけたり、入居者の誕生日には要望を出来る限り叶えられるように、食事を兼ねた外出支援が実施されています。最近では、大型ショッピングセンター内のペットカフェに出かけ喜んでいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物に行く際は、利用者様にお金を持ってもらい、会計時にも自分で支払ってもらうようにしています。外食レクでもショッピングセンターのフードコートに行き、利用者さんが自分で食べたいものを選ぶようにした企画も実施しました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週木曜日の書道教室では、年賀状や暑中見舞いのハガキを書く稽古もしています。電話に関しては、ご本人につなぐこともしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとの写真集を掲示したり、ユニットごとのアルバムを作成したり、楽しかったことを見える形で残しています。快適に過ごしていただけるよう常に清潔感あふれるユニットを目指し、美化活動に取り組んでいます。	事業所全体は清潔感があり、日々の掃除が行き届いています。共有スペースは、開放的で明るく、ゆとりのある空間の中に入居者の手作り作品が飾られています。トイレは各ユニットに5か所設置され、各居室から利用しやすく快適に過ごせるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ガーデニングや野菜作りを共用部のバルコニーで行っています。利用者様にとっての憩いの場が、リビングルームだけでなく、気分転換が図れるスペースになれるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の思いをそのまま部屋のレイアウトやデザインに活かしています。レク活動の作品や、写真の掲示などを行い、ご家族に様子が伝わるようにもしています。	全ての居室に日差しが入り、住み心地の良い落ち着いた環境です。入居者が使っておられた馴染みの家具やお気に入りの人形が飾られるなど、安心して過ごすことが出来るように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の部屋とリビングの行き来については自由に。職員の見守りがあることを前提に、一階のフロアや違うユニットへの移動なども出来るよう配慮しています。		